

公益財団法人生涯学習振興財団

# 財団通信

発行所  
〒832-0814  
福岡県柳川市三橋町垂見18-2  
公益財団法人生涯学習振興財団  
TEL 0944-72-5452  
FAX 0944-72-1803  
発行人 理事長：沖永佳史  
編集人 事務局長：井上正明

**公益財団法人生涯学習振興財団として  
新たに活動を開始しました**  
平成26年4月1日から



公益財団法人 生涯学習振興財団  
理事長 沖永佳史

財団法人生涯学習振興財団は、昭和63年7月8日、「生涯学習会館」を設置し運営すると共に、地域社会の要請に応じて、教育、文化、健康、福祉などに関する事業を実施し、もって、豊かで活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とする。一として発足。福岡県教育委員会の指導の下で、柳川市において27年余の歴史を刻んできました。

法改正に伴い、しばらく福岡県教育委員会管轄の特例民法法人として活動してきましたが、事業内容が全国に及ぶものがあり、昨年9月、内閣府公益認定委員会に公益財団としての認定申請を行いました。関係者のご支援をいただき、本年3月に認定を受け、平成26年4月1日、名称を「公益財団法人生涯学習振興財団」として、新たな歴史をスタートしました。

主たる事務所は、従来通り福岡県柳川市三橋町垂見18番地の2です。新しい財団は、全国に向けて、



公益財団法人生涯学習振興財団  
生涯学習会館

次世代の人材育成をめざすことと、地域社会活性化事業を通して豊かで活力のある社会づくりへの貢献を目的として、

(1) 全国の高校生対象小論文コンクール・県南地域対象ジュニア美術展の開催、

(2) 教育、文化、健康、福祉の面から公開講座や各種学習支援事業、

(3) 青少年健全育成及び地域住民の活力ある諸活動支援等

等を公益目的事業として、活動することとしています。

これまでも、監督庁でありました福岡県教育委員会をはじめとして、地域の皆さん方からの支援をいただいていたところですが、今後ともよろしくお願ひします。

現在公益財団法人生涯学習振興財団はつぎのような事業を行っています。

《主な活動》



次世代人材の育成をめざし、毎年高校生を対象に高校生小論文コンクール事業を行っています。5月に募集をはじめ、10月末を締切り

とし、その選考結果は元旦の読売新聞西部本社版全1面で発表されます。一月下旬に福岡市で表彰式を行い、三月までに優秀作品集を発行しています。共催は読売新聞西部本社、後援などは文部科学省をはじめ西日本11県、そして帝京大学・帝京大学グループからは特別協賛をいただいております。

テーマは「今こそ大志を語れ」とし、今年16回を迎えますが、全国から約1万2千人に近い応募があります。優秀作品として、個人の最高賞は、初代理事長沖永佳史博士の次世代の若者に対する熱い思いを「熱き夢」と題した彫像に託し、「沖永佳史博士大賞」として授与し、その他個人部門、グループ部門についても各賞を準備しています。

筑南ジュニア美術展



発足して25回を迎えるこの美術展は、幼・小・中学生を対象に主に筑後地区(県南)を主な募集地域として、絵画、習字部門に分

けて、毎年5月下旬から募集を開始し、9月初旬に締切り、審査ののち、十月中旬に入賞者(二部代表者)を招いて、盛大な表彰式を行っています。応募状況は約6千点、特別理事長賞をはじめ各入賞作品を館内に展示し、展示会を行っています。その後、優秀作品は過去のものを含めて館内に展示し、「筑南ジュニア美術館」として一般公開しています。



学習クラブの活動1



財団施設を使った一般対象のクラブ活動です。原則として毎週一回活動しており、その成果は、十月に館内で発表会を行っています。クラブによって活躍されています。

学習クラブの活動2



財団施設を連絡会議の場(準備会・検討会・反省会など)として、発表会は帝京大学福岡キャンパスとの交流を兼ねて大挙祭(帝京祭)会場を発表の場とする大牟田地区の学習クラブです。毎年人気のクラブとなっています。

小中学生対象の英会話・算数・絵画教室

毎週土曜日、英会話教室などを、

ALITや専門の先生から指導を受け、学習教室を開設しています。



帝京大学などの教授陣による公開講座の実施

大学の社会貢献の一環として、帝京大学福岡医療技術学部から専門を生かした公開講座を財団会館を活用して年間計画の下で実施しています。高齢化時代を迎えて、一般教養のほか、健康問題をテーマとしたものが行われています。



第3回小論文研修会分科会の様子 (25.6)

※財団では、各催しへの参加者の募集とともに、新たな学習クラブの設立も応援します。相談は財団事務局へ

# 第15回高校生小論文コンクール表彰式を盛大に開催

平成25年度高校生小論文コンクール表彰式は1月26日(日)午後3時から、福岡市博多区のANAクラウンプラザホテル2Fシヤンパリーニで沖永佳史理事長のほか、財団理事、評議員、福岡県教育委員会、帝京大学関係者、共催の読売新聞西部本社出席のもとで開催された。

主催者を代表してあいさつに立った沖永佳史理事長は、全国の高校生から一万二千人に近い応募をいただいたことに對し、関係各位にお礼とともに、激戦を制した受賞者の皆さんにお祝いの言葉を述べ、あわせて、指導の先生への敬意を表された。

まず、この高校生小論文コンクール発足理由にふられ、テーマ「今こそ大志を語れ」は、先の大戦における戦前戦中の世情不安定な時代に、多感な時期を過ごされた初代理事長沖永佳一博士が、混乱の時代においても自分を失わず、自らの将来をしっかりと考える必要があるのだという、自らの体験をもとに、次世代を担う若者たちに対して、大きな夢をもって自らの将来を切り拓いて欲しいという期待を込めてはじめられたものである。

今日の経済状況は好転しつつあるとはいえない、依然不安定な情勢であり、先見も少子高齢化先進国として、有識者会議などが行われ、対策が取られつつある。しかし、本来的には、そこに住む者が、任せておくではなく、どういう世の中を実現すべきか考えるべきである。そこで、次世代を担う若者である高校生が、これからどういう社会を作るかについて、どんな時代であるのかも改めて大志を語ってほしいものであると激励された。

表彰では、沖永佳史理事長から個人部門最高賞の「沖永佳一博士記念大賞」を受賞した、中川路浩士(鹿児島工業高校)さんにオリジナルトロフィー「熱き夢」と表彰状及び副賞の奨学金が授与された。続いて、優秀賞の村上綾華(大牟田北高)さんには表彰状及び副賞の奨学金が授与された。

グループ部門では、審査委員特別賞の久留米高校三年生六名に、それぞれ表彰状と記念品が渡された。また、今回第一五回を記念して、個人部門での応募が十万人を突破したのを記念し、学校をあげて積極的によくの作品を寄せられた柏陵高校、そしてグループ部門において、その発足時(第六回)からこの企画に賛同し、校内のセサミプランとして活動されている多くのグループ研究をお募りされた久留米高校の両校校長先生においでいただき、特別学校賞をお贈りした。

続いて、審査委員で読売新聞西部本社編集局生活文化部の矢田民也部長は、講評で、いい文章とは何か。文章として整って論理だっているとはいえないのだが、時として子供の書いた文章には心に迫るものがある。あの東日本大震災の数日後、読売新聞の記事で、ご両親を亡くした(本人はその亡くなったことこの理解がない中で)四歳の女の子が書いた「ママへ、生きてほしいねお元気で、書き疲れたものでた寝の写真とともに掲載されたのを、たわいな反響が寄せられたのを思い出します。たわいなもと言ったはそれまでだが、なぜ多くの人の心を打つのか。やはり文章の秘密として「何かを伝えたい」一人に伝えたいという熱い思い、今そがいて文章のポイントかなと思う。今年はその「熱い思い」を深め、感じた年であった。自分は選考の際、文章力と内容を審査の基準としているが、何より「気づき」ということを大切にしている。それは、書くことによりかえっていること、自分が何を思っているかを気づく作業でもあると思っている。最終選考に残った作品はそれぞれ甲乙つけがたい素晴らしい作品であった。次回に寄せられる作品をおおいに期待している」と述べた。

その後、中川路浩士さんから「この受賞の喜びを忘れず将来への夢を実現していきたい」というあいさつについて、村上綾華さん、そして特別学校賞の柏陵・久留米高校の校長先生からもそれぞれ受賞者の喜びの声をいただき閉会した。



●財団法人生涯学習財団 沖永佳史理事長による主催者挨拶



●グループ部門 / 審査委員特別賞：久留米高校の皆さん ●個人部門 / 優秀賞：村上綾華さん ●個人部門 / 大賞：中川路浩士さん



●受賞者代表で挨拶する中川路さん



●理事長特別表彰 柏陵高校 待鳥校長



●理事長特別表彰 久留米高校 葉玉校長



●読売新聞西部本社 三浦局長による閉会挨拶



●読売新聞西部本社 矢田部長による講評



●受賞者代表で挨拶する中川路さん

## 第15回表彰式の様子から



受賞者の参席をいただいて開催された表彰式会場



表彰式を終えて沖永理事長を中心に受賞者全員で記念写真

# 平成26年度小論文コンクール伝達表彰式

第十五回高校生小論文コンクールの表彰式は、一月二十六日に行われたが、表彰式にお招きできなかった受賞者に対して、毎回、数校について直接学校を訪ね、激励を兼ねて伝達表彰式を行っている。

今回は、次の五校を訪問し、校長先生をはじめ、関係諸先生に同席していただき行った。直接表彰を受賞された生徒の皆さんにお会いし、直接表彰状や記念品を伝達し、それぞれから今後の抱負を

## 「鹿兒島」



高校生小論文コンクール個人部門  
伊集院高 川原さん佳作  
伊集院高等学校校長 川原 佳子 氏(左)が、本校で佳作を受賞された川原 佳子 さん(右)に、伝達表彰状を授け、激励を述べた。

## 「福岡」

2014年(平成26年)2月20日(木曜日)  
高校生小論文コンクール  
新宮一年 鈴木さん入選



高校生小論文コンクール  
新宮一年 鈴木さん入選  
本校で入選された鈴木 新宮 さん(左)が、本校で入選された鈴木 新宮 さん(右)に、伝達表彰状を授け、激励を述べた。

## 「北九州」

2014年(平成26年)2月20日(木曜日)  
高校生小論文コンクール  
黒尾丸さん 奨励賞  
黒尾丸 啓太 さん(左)が、本校で奨励賞を受賞された黒尾丸 啓太 さん(右)に、伝達表彰状を授け、激励を述べた。

2014年(平成26年)2月25日(火曜日)  
高校生小論文コンクール  
吉中さん 奨励賞  
吉中 健太 さん(左)が、本校で奨励賞を受賞された吉中 健太 さん(右)に、伝達表彰状を授け、激励を述べた。

## 「周南 柳関」

2014年(平成26年)2月25日(火曜日)  
高校生小論文コンクール  
吉中さん 奨励賞  
吉中 健太 さん(左)が、本校で奨励賞を受賞された吉中 健太 さん(右)に、伝達表彰状を授け、激励を述べた。

## 高校生小論文コンクール 審査に關わって

福岡県立筑紫中央高等学校 教頭 中神智文

私は教育庁教育振興部高校教育課勤務中の平成20年度から平成25年度の6年間にわたり、高校生小論文コンクールの審査員をさせていただきました。個人部門では毎年書き手の強い意志を感じられる文章が多く、優秀作品を選ぶのに苦労しました。応募された作品を何度も読み返していると、自分自身の高校時代はこんな将来に強い意志を持っていただろうかと、自分が恥ずかしくなるような気にもなった思い出があります。

また、グループ研究の部門も時間を掛けてきちんと研究や考察をしたものが多く、こちらも優秀作品を選んだものが苦しかったです。しかし、グループ部門の場合、最終的に一人が責任をもって書き上げるのか、分担して書き上げるのかの違いはあるとしても、グループで練りあげたグループでしかできない作品に仕上げてほしいかと思うものもありました。例えば、論文上で異なる意見を載せてみるとか、グループでしかできない試みも期待したいと思っています。

優秀作品を選ばずに私が注意した点は、三つあります。まずテーマの「大志を語る」に合致しているかという点です。書き手の気持ちや意志が「大志」として素直に表現できていることが大切だと考えています。ただし、「大志」と言っている、何も世界規模の大きな夢を語っている、あまり大きすぎる夢は夢で終わってしまう可能性も高く単なる夢物語になってしまうことも多いと思います。例えば、日常生活の中で、自分がどう強い意志をもって前進しているかを書くことも「大志」につながるものがあると考えて審査しています。

二点目は、ある意味特殊な体験ばかりを語っていないか、という点です。大きな災害にあたり、肉親の不幸などに直面したり、自分自身の病気やけがを体験したりなどが、人生の転機や自分の意思を固めるきっかけとなることはよくあります。しかし、そのような経験がなければ意志の強い文章は書けないかという、そうではないと私は思っています。感傷的な文章には、人はどうしても流されがちになります。だから、読んでいて思わず涙する文章には数多く出会いましたが、そういう感傷的なものだけに流されないように気を付けて審査しました。

三点目は、高校生の文章になっているか、という点です。その一つには手書きの文章であるというの大きなポイントになります。これは主としてグループ部門に言えることですが、ワープロソフトで打った文章は、本人が書いた文章であるかわかりませんし、手書きの文字から伝わる意思や力も感じられません。様々な事情で、手書きできない場合は仕方がないと思いますが、なるべく自分達の手でしっかりと書いたものであって欲しいと思います。手書きはワープロソフトを使う場合と違い、修正も楽ではありません。しかし、そこに高校生らしさを出せると思っています。また、言葉の言い回し一つで、大人が手を入れたものかそうでないものかわかることもありま。そのようなところも注意して審査していました。

小論文に書いた通りの人生を過ごしている人は、それほど多くはないと思います。しかしそうだからといって、「大志」を語ることに意味がないわけではありませぬ。高校生としての今の自分をしっかりと見つめ、そして将来像を描くことは、意外と心の奥底に残っていくものだと思っています。そしてそれが、いつの将来か、自分の栄養や指針とならないものとも限りませぬ。その時々夢を語ることは、何歳になっても自分を磨くことになるのだと考えています。

これまで本審査員としてお願いしていただきました中神先生は、このたび福岡県立筑紫中央高校教頭として御来校されました。今後の御活躍をお祈り致します。

## 平成25年度 高校生小論文コンクール 奨励賞受賞者一覧

- 日本人として誇りを持って生きる 福岡県 福岡県立嘉穂高等学校 岩本 恵 2年
- 夢へ向かって 福岡県 福岡県立香椎高等学校 浅野雪絵 3年
- 体罰問題から見た課題 福岡県 福岡県立修猷館高等学校 江崎文音 2年
- 私の使命 福岡県 福岡県中村学園女子高等学校 吉村真梨子 2年
- 将来のために 福岡県 福岡県立北筑高等学校 山本知幸 1年
- 「まさか」の連続 広島県 広島県鈴筆女子高等学校 深田菜月 3年
- 夏の雷鳴 熊本県 熊本県立湧心館高等学校(通) 鴻上和沙 3年
- 将来の夢 長崎県 長崎県立長崎商高等学校 中野明穂 1年
- かわいそうと思わないで 福岡県 福岡県立ありあけ新世高等学校 田中里実 3年
- 母と二人三脚でかなえる夢 福岡県 福岡県立春日高等学校 安井拓 2年
- 未来へつながる努力 福岡県 福岡県立小倉高等学校 岡村麻美 2年
- 歩く 山梨県 山梨県山梨学院大学付属高等学校 山田美樹 3年
- 美しい本の魔法 福岡県 福岡県立福岡中央高等学校 福島菜生 1年
- どうしても伝えたい事 福岡県 福岡県立三池高等学校 松尾鈴奈 1年
- 私の夢 福岡県 福岡県立八女高等学校 富久奈々 1年
- 自立への野望・闘い・大志 長崎県 長崎県立佐世保中央高等学校(定) 釘本初音 2年
- 日本の土産技術 福岡県 福岡県立八女工業高等学校 稲貫千紗 3年
- 人はいかにあるべきか 宮崎県 宮崎県立宮崎西高等学校 坂元遼太郎 1年
- 夢に向かって 福岡県 福岡県立小倉南高等学校(定) 黒尾丸啓拓 1年
- 心にふれる 福岡県 福岡県立宗像高等学校 大塚悠衣 1年
- 小児医療の現状 福岡県 福岡県立筑前高等学校 河野楓子 1年
- 将来の夢 福岡県 福岡県立太宰府高等学校 坂本麗奈 2年
- 夢について 国立北九州工業高等専門学校 西田伸 2年
- 私の抱く夢 福岡県 福岡県立明善高等学校 石田彩華 2年
- 私の夢 山口県 山口県柳井学園高等学校 吉中大地 2年
- 真実を追い求めて 福岡県 福岡県立八幡高等学校 平塚紫織 2年
- 不平等を乗り越えて 広島県 広島県立広島高等学校 近藤空良 2年
- 僕の夢 高知県 高知県立中村高等学校 田辺諒 3年
- 家族のありがたみ 鹿児島県 鹿児島県立鶴丸高等学校 川畑瑠紗 2年

※応募総数 10万人突破を記念して、第15回 高校生小論文コンクール奨励賞受賞作品集を発売!!



第16回高校生小論文コンクール  
作品募集



第25回筑南ジュニア美術展  
作品募集

### 平成26年度 公益財団法人 生涯学習振興財団公開講座(前期)

**第一講座：「易しい英会話」**  
内容：英会話の基本を学ぶ。初級～中級  
日時：平成26年6月2,9,16日の3回  
毎月曜日 13:00～14:30  
講師：新貝フランス(帝京大学 福岡医療技術学部)

**第二講座：「大気汚染と呼吸器疾患について」**  
内容：現在、世界各地でPM2.5に代表される大気汚染の増加が問題となっています。この講座では、大気汚染と呼吸器疾患の関連について、またその予防についてお話しします。  
日時：平成26年6月13日(金) 14:30～16:30  
講師：上瀧健二(帝京大学 福岡医療技術学部)

**第三講座：「知って得する!グッスリ眠れる方法」**  
内容：劇的な生活環境の変化に伴い、現代では「グッスリ眠れない」「夜間何回も目が覚めてしまう」といった不眠予備軍が増加しています。睡眠は食事・運動と並び健康維持の要です。意外と知らない睡眠の不思議!是非この機会と一緒に学び、より良い生活を送りましょう。  
日時：平成26年6月18日(水) 14:30～16:30  
講師：田上真二(帝京大学 福岡医療技術学部)

**第四講座：「知って得する!生活習慣改善の糸口! ~何気ない日常をかがえのない日常に~」**  
内容：普段、何気なく毎日を過ごされていると思えます。この講座を機会に自分の生活習慣を見直ししてみませんか

か?作業療法の専門職の立場から精神的な作業の捉え方、考え方についての紹介と、自分の生活を振り返る自己チェックを楽しんでいきます。  
日時：平成26年6月26日(木) 14:30～16:30  
講師：古賀昭彦(帝京大学 福岡医療技術学部)

**第五講座：「日々の楽々体操で!肩こりよ、さようなら!!」**  
内容：人間はなぜ肩こりが起きるのか、体が肩こりになるメカニズムについて少し考えてみましょう!そこから、普段何気なくやっている姿勢や動きの癖、呼吸を見てみましょう。自分の体のどの部分の動きが不足しているのか、硬いのか、原因を考えてみましょう。そこから、毎日できる簡単な体操をお教え致します。動きやすい服装でお越しください。  
日時：平成26年7月10日(木) 14:30～16:30  
講師：久保田真紀(帝京大学 福岡医療技術学部)

**第六講座：「人体の不思議 part ②～脳～」**  
内容：今回のお話は、前回好評を頂いた人体の不思議シリーズ第2回となります。テーマは「脳」。脳はまだまだ解明されていないことだらけです。脳について、そして脳の障害が起こったらどのような症状が起こるかにて、お話しします。  
日時：平成26年7月28日(月) 14:30～16:30  
講師：佐藤仁宣(帝京大学 福岡医療技術学部)

この講座は全て公益財団法人生涯学習振興財団と帝京大学福岡医療技術学部の共催で柳川市三橋町垂見の生涯学習会館で行います。

### 平成25年度 財団法人 生涯学習振興財団 主な活動 (中心会場：財団生涯学習会館) (平成26年度は公益財団法人生涯学習振興財団となります。)

3	2	1	12	11	10	9	8	7	6	5	4
高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備	高校生小論文コンクール 次年度準備

**高校生小論文コンクールの選考について** (あごきかかえ)

高校生小論文コンクールは「今こそ大志を語れ」をテーマに、今年で16回を迎えます。毎年、全国各地から多くの応募をいただき、第1回から数えて15回で10万人の応募を超えました。関係者一同深く感謝しております。

近年は、特に毎年1万人を超える作品の応募をいただいておりますが、その審査をどのようにしているのかにつきまして、尋ねられることもあり、その審査状況を説明させていただくことにしました。

個人部門での応募作品は、到着受け付け順に、応募作品原稿と申込み用紙を、それぞれ通し番号を付けて分離し、学校名や個人名に左右されないように番号を付された応募作品による予備審査に入ります。

第一次予備審査では、作品を40点ごとに分けて、封筒に入れて、一袋につき二名の審査員が審査します。基本的に審査は、審査対象を応募条件である400字詰め原稿用紙3枚以上4枚以内のものとし、内容・表現を中心にA・B・Cの三段階に分け、二人の審査員のどちらかがA・B評価をしているものを二次審査対象作品とします。この審査で例年、ほぼ一割程度に絞り込まれています。

二次審査対象作品を、コンピュータ乱数表により、学校が片寄らないように全体のバランスを見ながら、封筒一袋に十点を封入します。二次審査は、五名の審査員がそれぞれ改め内容・表現についての観点から点数(10点満点)での評価とし、その合計点で順位を出し、三次審査に進むのはその中から上位一割程度となります。運営委員六名程度がそれぞれ作品を改めて吟味し、最終審査候補作品および奨励賞候補作品を決定します。その後、本審査委員に、候補作品が送付され、本審査に臨んでいただきます。

最終審査では、予備審査員から状況説明の報告後、本審査員それぞれの審査結果をもとに協議がなされ、質疑の後、入賞作品が決定されます。

グループ応募作品は、十名の予備審査員および運営委員で、個人作品予備審査と並行し選考し、最終審査会に提出します。

このように、多数の審査員の目を通るうちに、これはという作品はいつの間にか上位に残る結果となっております。優れた作品の取りこぼしはないと自負しております。

毎年、元日の読売新聞西部本社版をお待ちかねの方々も徐々に増えております。入賞の優秀作品は、二月中旬までには優秀作品集として出版いたします。今回一五回は応募数10万突破を記念して、今まで前年のみの発表をしていた奨励賞について特に、奨励賞作品集を発行しました。いずれも入賞してもおかしくない力作ばかりです。発行部数の制限はありますが、ご希望の方には送付させていただきますので、一報一報お楽しみください。

本年も多くの高校生の皆さん方からの「大志」をお待ちしております。

(財団事務局)